

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 11 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23593254

研究課題名(和文) 島嶼に居住する在宅酸素療法患者の在宅療法支援モデルの構築

研究課題名(英文) Construction of Home Care Supporting Model for HOT Patients Living on the Isolated Islands

研究代表者

石川 りみ子 (ISHIKAWA, RIMIKO)

上智大学・総合人間科学部・教授

研究者番号：50316212

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：離島に居住し在宅酸素療法(以下HOT)を受けている患者が自己管理能力を高めて、療養を円滑にするための支援モデルを構築することを目的に、M島基幹病院の看護職等からなるHOT患者在宅療養支援検討会を立ち上げ、外来にHOT患者への療養支援体制を敷く一方、HOT患者サロンおよびHOT患者への研修会等を実施した。また、支援ボランティア組織づくりの検討を行った。

その結果、外来でのHOT患者への関心が高まり指導体制の変化がみられた。HOT患者サロンは、研修会、患者交流によって知識の向上や療養生活への変化に繋がっていた。地域参加への支援体制は島嶼の特徴から福祉職との連携による支援体制の可能性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：For the purpose of those HOT (Home Oxygen Therapy) patients living on the isolated islands should realize their own self-care ability and to construct the supporting model for better quality of life, a group of nurses from major hospital on the island M, launched a Study Group for supporting HOT patients. They started home care supporting system for HOT outpatients, on the other hand, they prepared a HOT patients' salon and held study meetings for the patients, and also considered how to build up the voluntary supporting organization.

As a result, the concern for the HOT outpatients grew and the changes were seen in the supporting system. The salon not only served as a meeting place, but also it connected with improvement of their knowledge and life under home care by their mutual interaction. Concerning the local supporting system, from the view point of the isolated islands, it was suggested that there is a possibility of the cooperation from the social workers for supporting system.

研究分野：慢性看護学

キーワード：島嶼 在宅酸素療法 患者サロン 外来看護 在宅療養支援モデル

1. 研究開始当初の背景

(1) 在宅酸素療法 (以下 HOT とする) 患者は、基礎疾患に気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患などを有しており、在宅療養において喘息発作や上気道感染等の罹患による急性増悪をもたらすリスクが高く、常に医療機関との連携のもと、日頃から家族とともに健康管理を行うことが重要である。しかし、島嶼においては高齢化が顕著で、独居又は高齢者夫婦世帯も少なくなく¹⁾、患者を取り巻く支援体制は十分とはいえない。筆者らの離島の HOT 患者を対象にした調査では患者の多くが療養における呼吸状態のコントロールが不良で、地域活動参加もほとんどが行えていない状況であること²⁾、クオリティ オブ ライフ (以下 QOL とする) は低いことが示唆された³⁾。

(2) 患者及び家族が障害された身体機能を理解し、在宅療養においてセルフケア能力を高め、病気の進行を防止するためには、専門職による継続的な患者及び家族への指導及び精神的支援は重要である。しかし、筆者らによる都市部と離島との HOT 患者の療養支援の比較では医師、看護師の支援は離島が低かった⁴⁾ ことから、離島では医師、看護師による療養支援に課題があることが推察された。

(3) 慢性疾患患者の自己管理においてソーシャルサポートの効果⁵⁾ や、ソーシャル・サポートの一形態であるピア・サポートは問題解決や精神的支援の効果が期待される⁶⁾。そこで、地域との交流が乏しく家族だけの環境で在宅療養を続けている患者に対し、情報交換などピアサポートが得られる環境を作ること、患者の療養支援のための看護職の指導力向上に向けた支援活動を行うこと、および患者の地域活動への参加を促進する支援体制作りは患者の自己管理能力と QOL を高める

ために意義あることと考える。

2. 研究の目的

(1) 地理的環境から物的・人的資源の少ない島嶼環境において、離島に居住し在宅酸素療法を受けている患者が自己管理能力を高めて、社会参加を促進するための支援モデルを構築する。

(2) すなわち、①医療機関の外来看護の療養相談機能を高め HOT 患者に対する支援体制をつくる、②ピアを含めたサポートが得られるよう環境作りをする、③酸素療法をしながら地域活動に参加できる支援体制の基礎をつくる。

3. 研究の方法

(1) M 島の HOT 患者を有する基幹病院の責任者に対し研究協力の依頼を行い、基幹病院の外来看護に関わる看護師、内科医師のほか、地域の看護職、地域ボランティア、および大学教員計 10~12 名で構成する在宅療養支援検討会 (以下、検討会とする) を組織する。検討会の活動内容を、①外来看護師の療養指導に関する実践力向上に向けた支援、②HOT 患者の自己管理能力向上に向けた支援、③地域活動参加の支援ボランティアの検討、④在宅療養支援モデルの構築とする。活動実施にあたって検討会の下部組織として上記①②を実施する 2 つのワーキンググループを編成しメンバーを検討会メンバーの一部と外来看護に関わる看護師 2~3 名を加え、各々 8~9 名とする。

(2) 対象は、①については M 島基幹病院の外来看護に携わる看護師で研究参加に同意の得られた者、および講演会研修会参加者のうちアンケートに同意の得られた者、②については M 島 HOT 患者を有する基幹病院の外来看護中の HOT 患者で同意の得られた者、お

よび講演会研修会参加者のうちアンケートに同意の得られた者とする。また、③については、趣旨に賛同した組織とする。

4. 研究成果

(1) HOT 患者在宅療養支援検討会は平成 23 年 8 月から平成 25 年 3 月までに、毎月 1 回定例で 26 回開催され、活動の方向性や内容が審議された。下部組織の①指導力向上支援ワーキンググループは平成 23 年度に組織され、在宅酸素療法患者指導マニュアル、在宅酸素療法パンフレット、自己管理日誌を作製するとともに、看護師の指導力向上のための研修会、講演会を開催した。②HOT 患者サロン・指導ワーキンググループは 2 年目に組織され HOT 患者サロンの企画・運営、HOT 患者・家族対象の研修会・講演会を行った。

(2) 看護師対象の研修会、講演会は計 5 回開催され、参加者は延べ 206 名であった。研修会、講演会のアンケート結果から、受講者は、セルフマネジメント教育の重要性、患者のセルフマネジメント向上に外来での指導は役立つこと、患者教育プログラム、患者の運動・呼吸支援の仕方、患者の達成感に繋がる療養支援について学んでいた。実技演習による研修会は呼吸アセスメントの必要性、知識更新の必要性、聴診による呼吸音の異常分類、吸引やポジショニングの呼吸援助などを学んでいた。演習は各々の立場で呼吸ケアに活かす意欲をもみせていた。

(3) 外来における HOT 患者への療養指導体制について外来に携わる看護職と HOT 患者を取り巻く多職種協働に変化がみられた。外来看護師は以前に比べ HOT 患者にかなり話しかけるようになり、外来の相談指導では、看護師は患者に相談用紙を渡して困ったことはないかを尋ね指導したりするなどの変化が見られた。また、相談内容によっては医

師に引き継ぎ、治療の変更もみられ、相談件数も少しずつ増えていた。酸素療法に問題のある患者に対しては、酸素業者に訪問時流量が指示通りになっているか頼んだり、受付クランクや補助員も酸素吸入の確認を行ったり、外来師長、地域連携室、酸素業者が連携して正しい酸素吸入がなされるよう支援していた。

(4) 外来での療養指導体制として、内科外来では看護スタッフ全員が指導できる体制づくりが検討された。点検チェックリストや指導チェックリストを作成し、外来に訪れた HOT 患者に対してチェックリストで不十分な点を作製した在宅酸素療法パンフレットや在宅酸素療法指導マニュアルなどの冊子類を活用して指導する、また、呼吸管理日記から家での状況も踏まえて指導することが検討された。

(5) HOT 患者・家族対象の研修会、講演会は計 3 回開催され、参加者は延べ 40 名であった。HOT 患者サロンは平成 24 年 6 月に発足し毎月 1 時間程度 M 島基幹病院内科外来近くの一室で行われ 18 回開催された。HOT 患者サロンの参加者は 1 名～5 名の範囲で推移し、延べ 49 名であった。主な内容は、患者同士の交流、情報交換、レクリエーション、四季に因んだ行事、戸外活動（ドライブ）、専門職によるミニ講義、招聘講師による研修会、療養相談等であった。参加後アンケートの自由記載から、以下の 6 つが成果として集約された。①患者同士の情報交換では HOT への不安や生活上の工夫が表出され、安心感や勇気づけ、励みが得られていた。②研修会・講演会やミニ講義をとおして病気や療養生活に役立つ知識を得て、意欲の向上に繋がっていた。③季節行事やレクリエーションは楽しい体験とともに患者同士の仲間意識、スタッフへの親近感に繋がっていた。⑤ドライ

づは、野外の空気や自然の景色に触れることで、気分の高揚や元気に繋がっていた。⑥他県の HOT 患者会からの情報は、活動に見合う酸素ボンベの支給に繋がり、患者の活動の拡大に役立っていた。

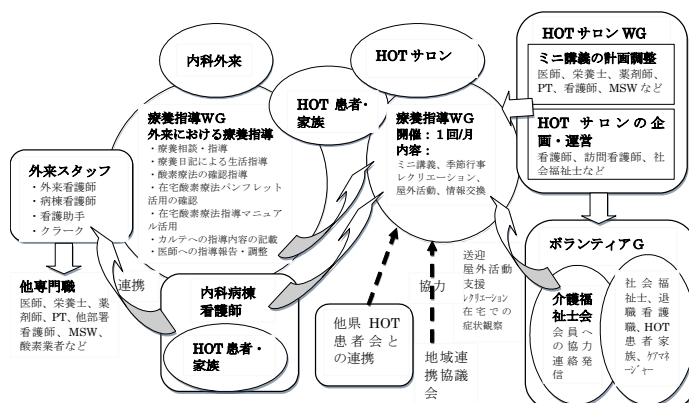
(6) 他県 F 病院の HOT 患者会役員との交流は 3 回行われ、内容は F 病院 HOT 患者会支援活動の視察、F 病院 HOT 患者会バスハイクへの検討会メンバーの参加、F 病院 HOT 患者会役員との M 島 HOT 患者サロンへの参加交流であった。それらをとおして、M 島 HOT 患者サロンとのつながりや協力体制の可能性が示唆された。

(7) 介護福祉士会との HOT 患者支援の検討では、介護福祉士会役員 5 人と 3 回会議を開催し HOT 患者理解と在宅支援、および HOT 患者サロンへの支援体制を模索した。その結果、HOT 患者理解と患者支援につなげるための研修会を開催すること、介護福祉士会が病院主導のサポートボランティアとしての支援は可能であること、HOT 患者サロンや送迎のボランティアの必要時、会員への呼びかけの役割を取ることが確認された。

(8) 介護福祉士会会員対象の研修会は 3 回開催され、参加者は介護福祉士を中心に、ケアマネージャー、相談員、看護師等で延べ 83 名であった。参加後の自由記載から、HOT 患者の日常生活での支援の仕方や HOT 患者の抱える悩み・問題の理解とともに、HOT 患者サロンでの支援の意思が表出された。また、呼吸機能、病気、急性増悪の理解が深まったと回答していた。3 回目の呼吸介助の実技演習では呼吸の観察ポイント、症状、呼吸法、呼吸介助法、排痰法などの理解が深まったことや HOT 患者の支援への協力姿勢が表出されていた。

(9) M 島内病院、診療所、老健施設、特別養護老人ホーム、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、福祉保健所、医師会、歯科医師会、薬剤師会、栄養士会、ケアマネージャー会などで組織する地域連携協議会において、M 島基幹病院外来で行っている HOT 患者療養支援活動について紹介を行った。M 島の保健医療福祉専門職代表者が HOT 患者サロンについて周知する機会となり、HOT 患者を抱える診療所から関心が寄せられた。

(10) HOT 患者在宅療養支援検討会活動、ワーキンググループの諸活動、他県 HOT 患者会との交流、介護福祉士会や地域連携協議会との連携などの 3 年間の活動により M 島の HOT 患者の在宅療養支援モデルが図 1 のとおり示された。



<引用文献>

- ① 沖縄県宮古福祉保健所、平成 19 年度 宮古福祉保健所概要、2008.3
- ② 石川りみ子、宮城裕子、伊牟田ゆかり、平良孝美、島しよに居住する HOT 患者の在宅での療養状況および伝統的な行事と QOL との関連、沖縄県立看護大学紀要、第 13 号、2012、13-24
- ③ 石川りみ子、宮城裕子、松田梨奈、前川一美、島しよに居住する慢性呼吸器疾患患者の在宅療養に関連する要因と QOL

に関する研究、沖縄県立看護大学紀要、
第 10 号、2009、1-14

- ④ 石川りみ子、宮城裕子、伊牟田ゆかり、
離島に居住する在宅酸素療法患者の QOL
と在宅療養に関する研究—沖縄県の離島
と沖縄本島都市部との比較—、沖縄県立
看護大学紀要、第 12 号、2011、13-23
- ⑤ 金外淑、嶋田洋徳、坂野雄二、慢性疾患
患者におけるソーシャル・サポートとセル
フ・エフィカシーの心理的ストレス軽減
効果、心身医、38(5)、1998、318-323
- ⑥ 小野美穂、高山智子、草野恵美子、川田
智恵子、病者のピア・サポートの実態と
精神的健康との関連—オストメイトを対
象に—、日本看護科学会誌、27(4)、2007、
23-32

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① 石川りみ子、宮城裕子、荒木美名子、佐
久川和子、島嶼に居住する在宅酸素療法
患者の在宅療養支援モデルの構築—外来
看護における在宅酸素療法患者療養支援
活動の評価—、聖母大学紀要、査読有、
第 10 号、2013、7-14
- ② 石川りみ子、玉城久美子、宮城裕子、本
村悠子、宮国弘子、島嶼に居住する在宅
酸素療法患者の在宅療養支援モデルの構
築—在宅酸素療法患者の療養状況と伝統
行事参加の現状—、聖母大学紀要、査読
有、第 10 号、2013、15-22
- ③ 宮城裕子、石川りみ子、玉城久美子、照
屋清子、本村悠子、奥浜杖子、盛島幸子、
島尻郁子、島嶼に居住する在宅酸素療法
患者支援モデルの構築—外来看護におけ
る療養支援の現状と課題—、沖縄県立看
護大学紀要、査読有、第 14 号、2013、89-96

[学会発表] (計 8 件)

- ① 石川りみ子、宮城裕子、荒木美名子、島
嶼に居住する HOT 患者の在宅療養支援モ
デルの構築—2 年間のサロン活動とその評
価—その 1、第 34 回日本看護科学学会学術
集会、2014 年 11 月 29 日～11 月 30 日、「名
古屋国際会議場 (愛知県・名古屋市)」
- ② 荒木美名子、石川りみ子、宮城裕子、島
嶼に居住する HOT 患者の在宅療養支援モ
デルの構築—サロン活動における成果と
課題—その 2、第 34 回日本看護科学学会学
術集会、2014 年 11 月 29 日～11 月 30 日、
「名古屋国際会議場 (愛知県・名古屋市)」
- ③ 石川りみ子、宮城裕子、玉城久美子、荒
木美名子、本村悠子、島尻郁子、島嶼に居
住する在宅酸素療法患者の在宅療養支援
モデルの構築、第 24 回日本呼吸ケア・リ
ハビリテーション学会学術集会、2014 年
10 月 24 日～10 月 25 日、「なら 100 年会
館、ホテル日航奈良 (奈良県・奈良市)」
- ④ 石川りみ子、荒木美名子、宮城裕子、宮
国弘子、砂川礼子、本村悠子、島尻郁子、
島嶼に居住する HOT 患者の在宅療養支援
モデルの構築—HOT 患者のサロン活動と
その効果—その 1、第 1 回日本呼吸ケア・
リハビリテーション学会関東地方会、2014
年 1 月 25 日、「聖路加看護大学アリス C.
セントジョンメモリアルホール (東京都・
中央区)」
- ⑤ 荒木美名子、石川りみ子、宮城裕子、宮
国弘子、砂川礼子、本村悠子、島尻郁子、
島嶼に居住する HOT 患者の在宅療養支援
モデルの構築—HOT 患者のサロン活動の
成果と課題—その 2、第 1 回日本呼吸ケ
ア・リハビリテーション学会関東地方会、
2014 年 1 月 25 日、「聖路加看護大学アリ
ス C.セントジョンメモリアルホール (東京
都・中央区)」
- ⑥ 石川りみ子、宮城裕子、荒木美名子、佐
久川和子、島嶼に居住する在宅酸素療法患

者の在宅療養支援モデルの構築－外来看護における在宅酸素療法患者療養支援活動の評価－、第 23 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会、2013 年 10 月 10 日～10 月 11 日、「東京ドームホテル、東京ドームシティプリズムホール（東京都・文京区）」

⑦ 石川りみ子、玉城久美子、宮城裕子、島嶼に居住する在宅酸素療法患者の在宅療養支援モデルの構築－在宅酸素療法患者の療養状況と地域活動の現状－、第 22 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会、2012 年 11 月 23 日～11 月 24 日、「福井フェニックス・プラザ、福井市体育館、（福井県・福井市）」

⑧ 石川りみ子、宮城裕子、玉城久美子、本村悠子、照屋清子、島嶼に居住する HOT 患者の在宅療養支援モデルの構築－外来看護における HOT 患者療養支援の現状と課題－、第 6 回日本慢性看護学会学術集会、2012 年 6 月 30 日～7 月 1 日（日）、「アクトシティ浜松 コンgressセンター（静岡県・浜松市）」

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石川 りみ子 (ISHIKAWA, Rimiko)
上智大学・総合人間科学部・教授
研究者番号：50316212

(2) 研究分担者

宮城 裕子 (MIYAGI, Yuko)
沖縄県立看護大学・看護学部・助教
研究者番号：50347720

玉城 久美子 (TAMASHIRO, Kumiko)
沖縄県立看護大学・看護学部・助手
研究者番号：90617507

荒木 美名子 (ARAKI, Minako)

聖母大学・看護学部・助手

研究者番号：90535684

(3) 研究協力者

本村 悠子 (MOTOMURA, Yuko)
島尻 郁子 (SHIMAJIRI, Ikuko)
盛島 郁子 (MORISHIMA, Sachiko)